

平成29年度 和光市立白子小学校 第6回学校運営協議会 議事録

平成30年1月16日(火)
午前10時00分～午前11時30分
和光市立白子小学校 校長室

出席者 富澤 昭憲委員、牧 江利子委員、榎本 克実委員、富澤 隆司委員、金井 良浩委員
西 貴美雄、坪谷 孝雄 (7名)

- 1 開会のことば(教頭 坪谷 孝雄)
- 2 学校長あいさつ(校長 西 貴美雄)

3 報告

- (1) 第3学期の学校運営計画及び状況について
- (2) 道徳科研究発表会開催について

※ 質問

◇「子どもを守る家」との連携状況について説明をしてほしい。

⇒今年度はPTA総務委員の方々に子どもを守る家事業協力者宅へ訪問をしていただく。保護者と地域をつなぐ架け橋をお願いした。下新倉小学校が開校するまでは子どもを守る家事業に協力していただいている方は130件を超えていた。新学区となってからは64件である。去年は学校から文書を配布して事業継続を依頼した。今後、事業協力者を増やしていくためには学校からの協力要請が必要である。新1年生を迎えた段階で取組んでいきたい。いくつかの条件があるので、新規事業協力をお願いすることは簡単ではないが、取組んでいきたい。

4 協議 (進行…会長)

(1) 協議題「後期学校評価について」

校長より資料に基づいて児童アンケート結果、保護者アンケート結果等について説明する。

「学校生活が好きだ」「先生に相談できる」という項目が前期比マイナスになっているのは残念な結果である。5・6年生の「友達を大切にしている」回答率が学校値を上回っていることはたいへんうれしいことでもある。

保護者アンケートでは「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答した方は9項目で90%を超えるが、「あいさつと言葉遣い」は72.5%である。

校長より学校評価システムについて説明し、委員より意見をいただいた。

◎「学校教育目標」について

◇実際のところ、学校の内部の教育方針について詳細はわからない。教職員の仕事であるのだから、組織の一員として職務を遂行することは当然と言えば当然であろう。文科省が地域学校協働活動という方向性を出している。大学生やNPO、民間企業を包括した学校協働活動を行っている地域もあるようだ。白子小学校はそこまでの大きな活動はないようだが、自治会だけでなく、地域学校協働活動を

実施している地域と比べると手薄な感じがする。「わこうっこクラブ」など放課後の子どもの居場所づくりにも取り組んでいけるのではないか。貧困の課題をどうやって救済していくのかも課題だろう。
⇒地区社教という取組が進められている。本校も近い将来、この取組が進められていくことと考えている。

◇地区社教と自治会の取組が同じ方向となっている。あえて、地区社教をつくる取組が必要か疑問でもあることは関係者に進言しているところだ。

◎「安全安心への配慮」について

◇登下校では、シルバーセンターから来ていただいている指導員さんに主要な交差点や交通量の多いところで見守りをしていただいている。安全は大切にしてほしい。

◇孫が樹林公園で6人の友達と一日遊んでいたそうだ。Jアラートの関係だったのかもしれないが、樹林公園の消火施設のボタンを誰かが押してしまって発報したと聞いている。この時、どうしたのかと聞いたら、子ども達は学校で教えらえたとおりにハンカチを口にあてて、身を落とす態勢をとったそうだ。燃えているものもないのということだった。学校が教えていることを子ども達はきちんと理解し行動に移すことができることはたいしたものだと思った。日頃、学校でよく訓練されているものだと思った。

◇教職員の危機管理意識は常に高めてもらいたい。ここまででよいということはない。

◇下校の際の安全確保が大切だろう。子ども達はバラバラに帰ってくるので、何かあったら危ないなど常を感じている。下校に対する児童への安全管理は不十分だといわざるをえないだろう。

◎「児童の基礎学力」について

◇このまま継続して取り組んでいただきたい。

◇ていねいにおしえてくれるという表現は抽象的だ。いったいクラスの中にわからない子どもは何人いるのだろう。数値化した方が説得力がある。ていねいという言葉は主観である。教師がそう思っても子どもはそう思っていないこともあるだろう。学校ではわからないが、塾ではわかるということもあると聞く。落ちこぼれがないようにしてほしい。

◎「学力向上を目指す授業改善」について

◇白子小学校は学力が向上していると聞く。よくやっているのではないか。

◎「学習規律の確立」について

◇学習ルールをすべての学級でそろえることを目標として出発しているようだが、結果的にはどうだったのか。多少は学級によって相違があるのではないか。すべてをそろえることは難しいだろう。達成率を見ても難しい状況であることはわかる。

◇うまく表現が見つからないが達成率や前後期の割合を見れば学校の取組はわかる。しかし、言葉で表すことは難しい。

◎「発達段階に応じた規律ある態度の育成」について

◇われわれの子どもたちと異なっている。楽しく過ごすことはよいことだが、悪いことも事実として認めることが大切である。やさしい子どもだけよいのだろうか、もっと粗削りな部分も必要ではない

- か。先生を手こずらせる子どももいてもよいのではないか。近隣の子どももみんなよい子である。
- ◇先生に相談できるという項目をみたが、よい結果が出ている。もうひとついじめ悪口の項目についても前後期比較でよい結果がでている。すばらしい数字が出ている。数字を見る限りよいのではないか。
 - ◇子どもが何かあった時にまず、助けを求めるのはまず友達、そして先生だろう。常に相談できる体制を整えているということは重要なことだ。引き続き取組んでほしい。

◎「規律ある態度育成のための指導の工夫改善」について

- ◇白子で行っている教育相談室やプレイルームの設置と教職員の対応は評判もよいと聞く。引き続き行ってほしい。子ども達がどれだけ救われているか察することもできる。よい教育環境である。

◎「運動への意欲」について

- ◇給食を残す子どもは低学年が多いと思う。量的には低学年は少ないわけだが、家庭との味の違いがあるのだろうか。
- ◇給食になるとおしゃべりの時間も楽しみだ。話していて食べることにまで気が回らないこともあるのかもしれない。
- ◇白子小学校体操の共通実施を行っているのならば、DVD などにもっと保護者にも PR をしてはどうか。
- ◇朝マラソンについても取組んでいるが、1～6年生までがどのように取組んでいるのか。週に2回ぐらい実施できるのがよいのではないか。

◎「体力向上策」について

- ◇このまま継続して取組んでいただきたい。

◎「地域や保護者との連携」について

- ◇熊野社の行事について子ども達を参加させられない理由があるのか。学校としては安易に足を踏み込みたくないのではないか。安曇野に穂高神社があるが、その祭りには、神社と学校と自治会が一体となって取組んでいる。PTA も参加している。非常に温かみのあるほほえましい取組だと感じている。こういったものが地域学校協働活動のひとつなのではないだろうか。
- ◇協働活動の中に地域活動と学校を捉えたときに自治会は防災訓練を行っている。日曜日等を実施することが多いのだが、子ども達や保護者に参加してもらいたいものだ。地域の高齢者や保護者、学生などが一体となったものが地域との連携の最終的な目標である。神社と学校について和光市の教育委員会がどう考えているのかわからないが、教職員も一緒になって参加してもらいたいものだ。
- ◇地域との連携は大変重要である。教職員が参加することは難しいのだけれど、地域の行事を把握することについては一般の教職員も努力してもらいたい。お祭り、防犯、防災など地域を実際に見て、視野を広げてほしい。また、和光市に住んでいる教職員にはぜひ自治会に参加してもらいたい。前回の話し合いにもあったが、各自治会の行事を教頭がまとめて、教職員に協力を呼び掛けていってもらいたい。
- ◇双方向の交流が大切だ。地域からも情報を学校に積極的に伝えていきたい。学校の授業の中に自治会活動という内容を入れていってもよいぐらいだ。道徳教育の中には地域とのきずなという内容もある。ぜひ、地域との連携を前向きに考えて行ってほしい。

◎「その他」について

◇地域未来塾がはやっているが、都内で実施している。学校の勉強が遅れている子どもや家に帰っても保護者がいない家庭を対象としてコミセンなどで子ども達に補習授業をしていると聞くが、このような取組について白子小学校としてどのように考えているのか。

⇒学校としては対応できない。「わこうっこ」は平成30年度、他の学校で実施すると聞いている。和光市ではアスナル教室を実施している。

◇施設整備の関係でトイレ改修の声が多くあげられている。30年度の予算案はもう固まっているのではないか。運営協議会として声を上げていくことも必要だろう。一般家庭のトイレはウォシュレットが当たり前だ。運営協議会の総意を受けて、学校長に教育委員会に要望をあげてもらいたい。

5 連 絡

(1) 第7回学校運営協議会（兼：学校関係者評価委員会）

平成30年3月13日（火） 午前10時～

(2) 平成30年度第1回学校運営協議会

平成30年4月 3日（火） 午前11時～

6 閉会のあいさつ（富澤 会長）